

2024 年度 総合選抜型 (A0 入試) (第 1 次選考)

【理工学部 住環境デザイン学科】

受 験 番 号								氏 名	
				-					

「世界の住環境」に関わる問題の一例として、以下の【文章 A】を読んだ後に、あなたが考えるこれからの住環境にはどのような材料を生活の中で使用し、どのような住まい方や生活等を提案(改善・改良・工夫など)して行きたいのか、自分の知識・経験を含めて考えを 600 字以内 に述べなさい。

【文章 A】

プラスチックごみの問題は、たとえ細かく砕けようとも分解されることのない物質が世界中でこんなにもたくさん使われ、そして捨てられ、海にも流れ込んでいつまでも地球を汚し続けるというものだ。

わたしたち人間は、近代以降に科学を発展させ、その知識を応用した技術で自然を変えてきた。とくに産業革命を経たここ 200 年ほどは、わたしたちの便利な暮らしと引き換えに、地球の自然に大きな負担をかけるようになった。そのひとつが地球温暖化であり、もうひとつがプラスチックごみの問題だ。

(中略)

地球環境は本来、壮大なリサイクルで成り立っているものだ。大気中の物質を生き物が利用し、生き物は死んでその物質を大気に戻す。そのリサイクルに割って入り、自然な循環を壊してしまったのが、わたしたち人間だ。地球のリサイクルにかかる年月にくらべ、わたしたちは事を急ぎすぎている。プラスチックを大量消費するようになって、まだせいぜい 100 年ほど。プラスチックという人工物は、地球にとっては異物だ。その異物の急増に、地球本来のリサイクルはいま対応できていない。地球はプラスチックを扱いきれていないのだ。

(中略)

植物や動物の体は、もともとは大気などに含まれていた物質でできている。動物が死ねば、その体はやがて植物が育つための肥料にもなる。

このように、地球上に存在するものは、おたがいに物質を利用しあっている。見方を変えると、ひとつの物質が、あるときは大気中に、またあるときは生き物の体として存在していることになる。つまり、地球上の物質は、その姿を変えながら壮大なリサイクルで地球をめぐっているのだ。

そのとき、とりわけ大切なキーワードになるのが「炭素」だ。炭素は地球をめぐる。それを「炭素の循環」という。プラスチックごみ問題の本質は、わたしたちがプラスチックを大量に消費し、この自然な炭素の循環をくずしてしまっている点にある。